

JC-SAT 2002 会議報告

電子情報通信学会 衛星通信研究専門委員会委員長 水池 健

AIAA 衛星通信フォーラムと電子情報通信学会通信ソサイエティ衛星通信研究専門委員会 (SAT 研) は、IEEE VT ソサイエティ日本支部 (IEEE VTS Japan Chapter)、韓国衛星産業会 (KOSST)、韓国通信学会 (KICS)、韓国 ETRI (Electronics and Telecommunications Research Institute, Korea)、Korea Aerospace Research Institute、韓国 IITA (Institute of Information Technology Assessment) と共催し、2002 Joint Conference on Satellite Communications (JC-SAT 2002) を 2002 年 10 月 10～11 日の 2 日間、韓国大田市にて開催した。この会議は、衛星通信、宇宙技術の進展を目的とし、2000 年より毎年韓国と日本で交互に開催している。

韓国は、'99 年に 3 トン級大型通信 / 放送衛星の KOREASAT 3、多目的低軌道衛星 KOMPSAT-1 を打ち上げて以来、衛星搭載機器、バス技術を着実に開発するとともに、衛星通信ネットワーク及び地球局端末の開発に力を注ぎ、衛星通信システム技術力の強化に努めている。一方、日本では、2001 年 8 月末の HIIA ロケット試験機の成功、本年 9 月の商用機の成功により、商用ロケットへの確実な第一歩を踏み出すとともに、14 機の通信 / 放送衛星にて、衛星の特徴を生かしたコンテンツ配信等、各種衛星通信・放送サービスを着実に展開しつつある。さらに、日本独自のシステムとして、静止軌道ではない軌道を用いた準天頂衛星通信システムが提案され、日本以外にもアジア・オセアニア地域へのサービスエリア拡大の可能性を有している。今後、日本が衛星の特徴を活かしたサービスを国際的に展開する上で近隣諸国との協力関係を持つことがますます重要であり、アジア地区の衛星通信先進国である日本と韓国が交流を深めるために、本会議は一つの有益な場を提供したと言える。

会議は、KOSST Chung 会長と SAT 研水池委員長によるオープニングの後、Korea



オープニングで挨拶に立つ水池 SAT 研委員長

Advanced Institute of Science and Technology の Choi 名誉教授と NTT ドコモの水野秀樹氏による 2 件の基調講演を皮切りに、8 セッション 35 件の講演が行われた。特に韓国側の基調講演では、韓国を宇宙開発先進国にすべく 2015 年までに 1.5 トン級衛星を 20 機打ち上げる計画及び技術者と施設の充実方針が示され、国家としての宇宙開発への熱心な取り組みが伺えた。

講演では、韓国や日本における宇宙技術 R&D、NeLS や WINDS などの新たな衛星通信システムの検討、多目的低軌道衛星 KOMPSAT-1 の後継機である KOMPSAT-2 の設計・開発、KOREASAT-3 を使った FTP および HTTP 伝送実験やモバイルマルチキャスト型サービスの開発、衛星通信におけるデジタル処理技術等の最新の研究成果などが報告され、日本や韓国での衛星通信システムの研究開発の取り組みが良く把握できるとともに、今回は米国から 2 名の参加があり、旅客機を対象としたブロードバンド衛星通信サービスの発表があった。各論文は、電子情報通信学会技術研究報告に掲載されているのでご覧いただきたい。

本会議には日本側からの 30 名も含めて、講演者、オーガナイザ、聴講者を合わせて総勢 60 名程度が参加し、大変盛況であった。

会議初日にはレセプションが開かれ、セッションでの発表に関する議論が引き続き行われ

学会だより

るとともに、日韓の参加者が衛星通信の将来像や協力関係などについて和やかに意見交換がなされた。

2003年度は、日本での開催を予定している。詳しくは、SAT 研 ホーム ページ (<http://www.ieice.org/cs/sat/jp>) で確認いただくか、メールで問い合わせを頂きたい。(sat@ieice.org)